

<p><b>14日</b> <b>(日)</b></p> <p>黙示録 19章</p>	<p>「わたしたちは喜び、大いに喜び、神の栄光をたたえよう。小羊の婚礼の日が来て、花嫁は準備を整えた。…この麻の衣とは、聖なる者たちの正しい行いである」(7-8節)。地上の邪悪が減ぼされる最中に、天では小羊(キリスト)の婚宴が祝われ、不当な迫害を受けた「正しい行い」は神の前で賛美に変えられていく。この希望に励まされ歩むことができるように。</p>
<p><b>15日</b> <b>(月)</b></p> <p>黙示録 20章</p>	<p>「この者たちは、あの獣もその像も拝まず、額や手に獣の刻印を受けなかった。彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した」(4節)。ヨハネは、ローマの皇帝礼拝強制に従わないキリスト者への厳しい迫害に胸を痛めながら、その苦闘を共にし、復活の命をもって彼らへの深い愛を示されるキリストの勝利を語る。その勝利を見つめる者とされていきたい。</p>
<p><b>16日</b> <b>(火)</b></p> <p>黙示録 21章</p>	<p>「見よ、神の幕屋が人の間にあつて、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる」(3節)。神の幕屋は、出エジプトの荒野の旅の労苦を共にし、約束の地に導いた神の深い慈しみと忍耐をあらわすもの。すべてを御存じの神が、一人ひとりにふさわしい慰めを用意してくださっている</p>
<p><b>17日</b> <b>(水)</b></p> <p>黙示録 22章</p>	<p>「天使はまた、神と小羊の玉座から流れ出て、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた」(1節)。キリストから流れ出る命の水は諸国の民の病を癒し、神を礼拝する喜びに人々を招く。ヨハネは語る。「この預言の言葉を秘密にしておいてはいけない」と。今の世界を覆っている偶像と偽りの支配の中で、この預言の言葉に信頼して歩む信仰を与えたまえ。</p>

聖書日課 『からし種』 2019.4.14-21

<p>18日 (木)</p> <p>創世記 1章</p>	<p>「初めに、神は天地を創造された」(1節)。「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」(31節)。「極めて良い」と、神が喜ばれる被造物の中に「わたし」がいる。「あなた」の人生の始まりには、神と天使たちの賛美がある。そして「わたし」と「あなた」は、創造主なる神の協働者として世界を「大切に治める責任」を託されている。</p>
<p>19日 (金)</p> <p>創世記 2章</p>	<p>「第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なされた」(2節)。六日の間に、神が各々の必要を十分に備えてくださっているので、七日目に「わたしたち」は神の前にすべての心配や不安を置いて安息の礼拝をささげることができる。「主はあなたと共におられたので、あなたは何一つ不足しなかった」(申命 2・7)。</p>
<p>20日 (土)</p> <p>創世記 3章</p>	<p>「蛇は女に言った。『決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ』」(4節)。蛇の言葉は「一部正しかった」。人が善悪の木の実を食べても「すぐには死ななかつた」から。しかし人が善悪の判断を自らの手で握り神に聴くことを忘れた時、人は互いに命を奪い合い、「死をもたらす存在」に堕ちたのだ。</p>
<p>21日 (日)</p> <p>創世記 4章</p>	<p>「わたしの罪は重すぎて負いきれません。…わたしに出会う人はだれであれ、わたしを殺すでしょう」(13-14節)「主はカインに出会う者がだれも彼を撃つことのないように、カインにしるしをつけられた」(15節)。弟を殺し、主の前で弟の存在など知らないと言い切ったカインを、主は生きる道へと押し出していった。主は、命の主であることを覚えて歩みたい。</p>